ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 240
March
2013

トピックス

国際会議への参加

国連宇宙空間平和利用委員会(COPUOS)科学技術小委員会及び UN-SPIDER 地域支援事務所(RSO)会合

ADRC客員研究員レポート

¶ルジヤ・チャリヤパン（タイ）

¶アグスチャン・リザル（インドネシア）

●国際会議への参加

国連宇宙空間平和利用委員会(COPUOS)科学技術小委員会及び UNSPIDER 地域支援事務所(RSO)会合

アジア防災センター（ADRC）はウィーン（オーストリア）において開催された国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）科学技術小委員会第50会期及びこれに併せて開かれた第４回UNSPIDER RSO（地域支援事務所）会合に参加しました。

COPUOSの本会議では、「発展途上国への能力開発訓練」「宇宙科学および宇宙技術とそれらの応用」「技術支援と地域間協力」などの様々な問題について、各国間で議論が行われました。2月11日12日の２日間に開かれたUNSPIDER RSO会合では、世界各地の地域支援事務所より30名以上が集まりました。同会議では、以下のサブテーマで積極的な議論が行われました。

①2012年の活動報告
②2013-2014年の活動計画
③進行中のプロジェクトの詳細レビュー
④緊急時の衛星画像ニーズに関する議論
⑤途上国に向けての技術支援のあり方に関する議論
⑥水害、干ばつ、火災等のグループにおける活動のあり方に関する議論

ADRCはUNSPIDER RSO会合において、2011年における活動実績及び2012年の活動予定について発表するとともに、事務局及び他のRSOとの意見交換を行いました。

●ADRC客員研究員レポート

ルジヤ・チャリヤパン（タイ）

はじめまして。私はタイから来ましたルジヤ・チャリヤパンと申します。私はタイの防災局で災害被災者を支援するソーシャルワーカーとして働いています。私が勤める部署は、主に災害に関する課題解決のための、財務および予算の管理等を行っています。

防災局は2002年に内務省の傘下に設立され、全ての省庁を通じて、災害に関する管理や運営を実施する主たる機関として運営されています。また、防災局は活動の一つとして災害直後における速やかな被災者支援を行うことを目的としています。この活動は、被災者の負担を軽減させるために、官民の関係機関が適切に連携し実施できるように進められます。さらに、被災者に対する食料、医療、水などの救援物資の提供や、仮設住宅の

Asian Disaster Reduction Center
アジア防災センター

〒651－0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2　東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2013

続き

設置、感染予防、医療対応などの支援も対応しています。

近年タイで発生している自然災害は、地球規模の気候変動や変化に影響を受けて、被害が拡大化しています。この原因のひとつとして、未成熟な都市計画や、多くの自然破壊が考えられます。一方で、近年では先進的なテクノロジーが私たちの日常に浸透していますが、これに伴って自然災害に対する注意力も欠如してきています。これら多くの問題により、自然災害が多くの人命や貴重な財産を奪っていると考えられます。

客員研究員として日本に滞在する間、私の研究テーマとして、日本の支援物資の管理および運営システムについて学びたいと思います。皆さまご存じの通り、2011年にタイのバンコクを中心に大規模な洪水が発生しました。この洪水被害においては、多くの機関によって支援物資が提供されましたが、物資の提供にあたってはたくさんの混乱が引き起こりました。

タイの国家防災計画（2010-2014）においては、支援物資の運営システムについて規定されています。この防災計画においては、防災局が災害時において国際緊急支援を受け取り、適切に分配するべき機関として明記されています。しかしながら、現在支援物資の受け取りおよび提供のプロセスがデータベース化およびシステム化されておらず、運営に支障をきたしています。担当部署レベルでさえも、支援物資は個々の職員によって輸送が検討され、独自でマネージメントされています。そこで、私が今後行う調査業務が、これら問題を解決させるためのシステムの構築、被災者への適切な支援、物資の管理運営などに少しでも寄与できればと思います。

日本は防災の分野において多くの知識を持っています。東日本大震災などの経験に基づいて構築された、災害管理システムや減災活動などの優良事例について、滞在期間中に学びたいと思います。最後に、今回日本における客員研究員の機会を頂いたADRCに感謝致します。研究活動の他に、日本の文化や社会を学びたいと思います。また、今回ご支援頂く多くの皆さまにも、合わせてここにお礼を申し上げたいと思います。

アグスチャン・リザル（インドネシア）

はじめまして。私はインドネシアから来ました、アグスチャン・リザルと申します。インドネシアでは国家防災庁（BNPB）というところで働いています。BNPBは2008年に設立された国レベルの防災担当機関で、主に災害予防や災害時における緊急対応、復興復旧活動の活動を実施しています。また、近年ではインドネシア国内の各州や県市においても同様の防災担当機能を持った地方防災局（BPBD）が設立されています。

地理的に見ると、インドネシアは北緯6度から南緯11度、東経97から141度で、赤道直下に横たわる国で、気候は熱帯性気候です。また、インドネシアは17,508もの島々を有し、国内は33の州で構成されています。総面積は520万平方キロで、人口はおよそ2億3800万人（世界で4番目に多い人口）です。

自然災害の視点でみると、インドネシアは毎年様々な種類の災害に直面しています。これはインドネシアが環太平洋火山帯に属し、ヨーロッパプレート、太平洋プレート、インド・オーストラリアプレートの境界上に位置しているからです。これらのプレートテクトニクスの活動に起因して、多くの地震（１日に20回程度発生）や火山活動（128の活火山）が頻発しています。また、熱帯性サイクロンも多く、関連した災害である洪水や鉄砲水、干ばつ、豪雨なども発生しています。

BNPBのビジョンは、自然災害に立ち向かい豊かな国作りを目指すことにあります。これはADRCの活動とも調和していています。アジア各国における防災に関するプログラムを通じてコミュニティの防災能力を高め、また、多くの国々と連携したネットワークを構築させることが

続き

重要になります。

ADRCの客員研究員プログラムは、私にとって防災に関する知識を深めることができる大変素晴らしい機会です。この客員研究員プログラムにおいては、災害準備や予防、災害管理、コミュニティレベルの早期警戒システムについて学びたいと思います。機会があれば、東日本大震災の被災地を訪問したいと思います。今回のプログラムで得られる経験が、帰国後の私の業務において、必ず役立てられるように頑張りたいと思います。

最後に、今回来日の機会を頂いたADRCおよびメンバー国の関連機関の皆さん、日本政府にお礼を申し上げたいと思います。合わせまして、インドネシア政府およびBNPBにおきましても、感謝を申し上げます。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。